

特色

当科には、山本晃義副院長兼第一呼吸器科部長、六車博昭第二呼吸器科部長、南木伸基第三呼吸器科部長兼総合内科部長、林 章人第一呼吸器科副部長の4名が所属しています。全員が日本呼吸器学会呼吸器専門医を取得しており、専門性の高い医療を展開しています。山本、南木は呼吸器内視鏡(気管支鏡)専門医です。林は緩和ケアに精通しており、緩和ケア外来および週1回緩和ケアチームの回診も行っています。また、南木はインフュージョンコントロールドクターの資格を有しています。

毎週火曜日、当科の4名の医師および専攻医や研修医が集まり、入院患者を中心にカンファレンスを行い治療方針を決定しています。また、胸部外科との合同カンファレンスも毎週月曜日に行っており、患者さんにとって最善の医療が提供できるように心がけています。そのうち1回は、呼吸器・乳癌がんボードとして、放射線科医、病理医、認定看護師や薬剤師が参加し、

活発な討議が行われています。

一般病棟で人工呼吸器を装着している患者さんに対して、週1回、医師、認定看護師、理学療法士、臨床工学技士がチームを組んで回診を行い、人工呼吸器からの離脱に向けた取り組みや安全管理を行っています。

医師以外の職員も呼吸器領域に関心を持つ者が多く、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が2名、呼吸療法認定士が40名在籍しており、呼吸器診療を支えています。

平成30年4月より呼吸器センターが開設されました。令和2年4月からは本館北タワー10階を呼吸器内科と胸部外科に特化した病棟とすることにより、今まで以上に呼吸器内科と胸部外科の協力体制が構築され、肺癌やそのほかの呼吸器疾患診療がさらに向上することが期待されます。また、研修医やスタッフの教育にも有用と考えています。

対象疾患

肺癌、胸膜中皮腫などの悪性腫瘍、肺炎、結核、非結核性抗酸菌症などの感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、呼吸不全、間質性肺炎、気胸など呼吸器系の病気を全般を対象にしています。

(1) 肺癌

ガイドラインに沿って、従来からの抗癌剤や、癌が増えるメカニズムにターゲットを絞った分子標的治療薬、最近注目されている免疫チェックポイント阻害剤を使用して治療にあたっています。また、胸部外科や放射線科と連携し、手術や放射線治療を含め、患者さんに最適な治療を提供しています。体調が比較的安定している患者さんは、通院での抗癌剤治療を積極的に行っています。外来での抗癌剤治療は外来化学療法室で行われ、専従の医師や薬剤師、看護師がきめ細かなケアをしています。終末期の患者さんは緩和ケア病棟を有する他院に紹介させていただくことがあります。

(2) 肺炎

人口の高齢化に伴い、高齢者の肺炎が増加しています。当院でも誤嚥の関与が疑われる肺炎が多数を占め

ており、抗生剤治療とともに、嚥下評価や嚥下訓練、食事形態の工夫なども合わせて行っています。看護部が中心となって当院オリジナルの誤嚥性肺炎看護プログラムを作成しており、その普及に協力しています。

(3) 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患(COPD)

気管支喘息やCOPDはステロイドホルモンや気管支拡張剤の吸入療法が主体となっていますが、吸入手技は患者さんによっては難しいことがあります。当院は薬剤師、看護師とともに吸入指導に力を入れています。

(4) 呼吸不全

当院で慢性呼吸不全等により在宅酸素療法を受けている患者さんは、現在約90名おられます。現在は新型コロナウイルス感染症のため休会中ですが、年2回患者会「HOTの会」を開催して呼吸のメカニズムや呼吸器疾患についての理解を深めています。在宅酸素療法の導入時には医師、看護師のみならず理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどがチーム医療として関わっています。外来通院の際は、担当医の診察以外に呼吸器病棟の看護師が外来に出向き、日常生活での

問題点など積極的に話し合うようにしています。

(5) 間質性肺炎

間質性肺炎の診断には高分解能CTが必須です。当院は2台の高分解能CTを有しており、迅速な撮影が可能です。確定診断には外科的肺生検を要することがありますが、当院は胸部外科に依頼して、必要に応じ実施可能です。間質性肺炎は急性増悪を来とし、呼吸管理が必要になることがあります。当院では、集中治療室が整備されており、救急科部と連携して、人工呼吸管理や循環管理などの集中治療を行うことが可能です。

(6) 肺結核

令和2年4月から本館北タワー10階に結核病床(2床)を再開しました。近年、肺結核は減少しており、高齢者の割合が増加しています。

(7) 新型コロナウイルス感染症

令和2年9月より入院患者を受け入れています。当科は、主として中等症以上の患者さんを担当しています。

これら以外の呼吸器疾患も担当医とスタッフが協力して患者さんやご家族に満足していただける医療を目指しています。

診療実績

図1は、2021年の疾患別入院患者数です。延べ入院患者数は665人で、2020年とほぼ同数でした。内訳では、例年通り肺癌が第1位ですが、COVID-19が第2位

になっております。以下、肺炎(誤嚥性含む)、間質性肺炎、喘息と続きます。

図1 2021年当科疾患別入院患者数(665人)

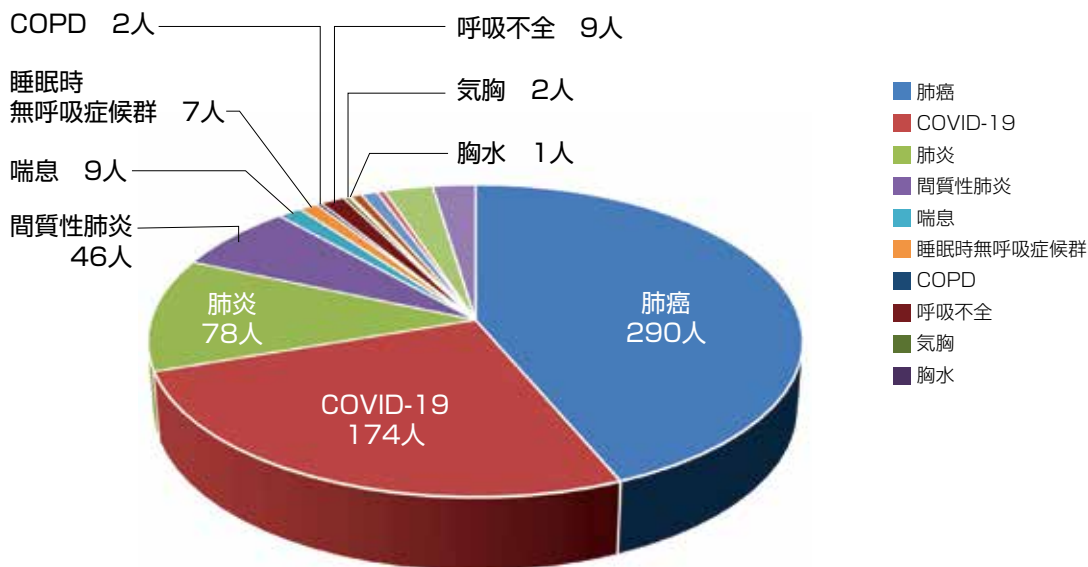


図2、3は2021年に当科で新規登録された50人の肺癌患者のプロフィールです。年齢中央値は73歳で、男性41人、女性9人でした。44人に喫煙歴があり、組織型では腺癌が27人と最も多く、扁平上皮癌11人、小

細胞癌3人と続きます。病期は、手術不能のⅢ、Ⅳ期が94%を占めていますが、高齢や合併症、本人の希望等でⅠ、Ⅱ期であっても内科的な治療を希望される方もいます。

図2 2021年の内科肺癌症例（組織型）

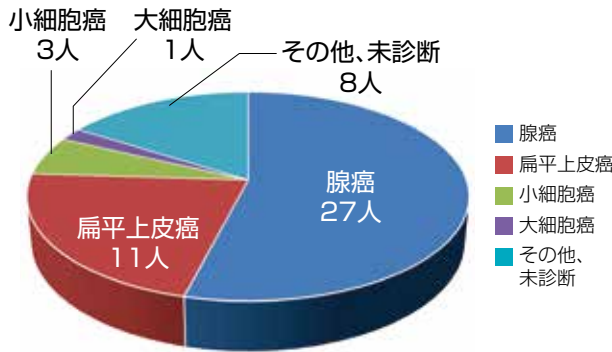
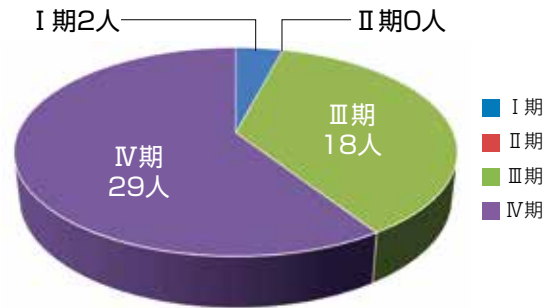


図3 2021年の内科肺癌症例（病期）



地域の先生方へ

当科の外来は、月曜日から金曜日までの毎日、本館2階の内科外来で行っています。（ただし、午後は予約のみですが、急患は対応いたします）

呼吸器疾患が疑われ、診断や治療方針にお困りの患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。肺癌など専門性の高い疾患以外は、当科で精査・加療後病状が安定しましたら患者さんを逆紹介させていただきますので、その際はよろしくお願いたします。

当科では、胸部外科と共同で、毎月1回（通常第3月曜日）に院内で「香川肺癌診断会」を開催しています。スタッフによるミニレクチャーと興味深い症例の提示を行っておりますので、近隣の先生方のご参加をお待ちしています。肺癌に限らず呼吸器疾患でお困りの症例がありましたら、ぜひ、ご持参ください。皆で検討させていただきます。